

オディリア通信

あいあい

夏号(No.90)

R5年8月15日

社会福祉法人 聖オディリアホーム乳児院
〒165-0031 東京都中野区上鷺宮 5-28-28
TEL (03)5971-8071 FAX (03)5971-8073

Eメール odilia@guitar.ocn.ne.jp

ホームページ <http://odilia.jp>

基本理念 「愛をもって、愛を育てる」

梅雨も明けて、あつという間に猛暑になりました。

ここ数年、夏には、毎日の朝礼で熱中症情報を伝えていきます。厳重警戒や危険など外にできることをためらう情報が続きます。子どもたちは定期受診や予防接種など、決められた時間に外にでなくてはならないことも多いので、水分や帽子など十分注意しながらかけていきます。

暑い中、公園遊びはできなくなりましたが、天気を確認しながら、短時間近くを散歩したり、ビニールプールを出して水遊びを楽しみます。今日も、行ってくるねと水着を着て、張り切ってペラントで水遊びをしている2歳の女兒。水鉄砲が気に入ったようです。

8月には、部屋ごと保護者の方と一緒にすいか割りを計画しています。新型コロナウイルス感染症が流行してから、保護者の方と一緒にできなかった行事がようやくできるようになります。

(施設長 鎌倉 道子)



	月	月	月
身長	cm	cm	cm
体重	g	g	g

つといの広場

聖オディリアアホーム乳児院の一階には、つといの広場があります。地域に住む0歳～小学校入学前の子どもとその保護者が、いつでも自由に遊べる場所です。

ゆつくり遊びやすいようコーナーに分かれていて、木のおもちゃや手作りおもちゃが豊富です。

●コーナー紹介●

〈赤ちゃんコーナー〉0～1歳児向けのおもちゃがあります。取り出しやすいようオープン棚にしています。

〈絵本コーナー〉絵本のほか、保護者向けの育児本も揃えています。



〈おままごとコーナー〉

フェルトで作った手作りの食材を使っておままごと遊びができます。お野菜からスイーツまで、食材の種類が豊富です。

〈運動遊びコーナー〉

低月齢児も遊べる低めの滑り台や、木馬などで体を動かす遊びも楽しめます。



●行事紹介●

季節に合わせた行事のほか、ベビーマッサージやリトミック、歯科講習会などを行っています。毎月開催の、ボランティアによる絵本の読み聞かせには、乳児院の子どもたちも参加し、地域の方との触れ合いを楽しんでいます。

(保育士 保坂)

雨の日の日

梅雨時になり雨の日が多くなると、子どもたちの大好きな散歩や院庭遊びはしばしばお休みの時期。代わりに梅雨時ならではの遊びを楽しみます。

小雨や雨上がりの日は、長靴を履きレインコートを着て院庭や玄関前で雨の感触を体感したり水たまり遊びで盛り上がりつつあります。普段は身に着けることのない長靴やレインコートを用意すると、みんな目を輝かせ飛びつきます。



水玉や虹色などそれぞれ気に入った長靴を選んだり、慣れないながらもコートを着るのに試行錯誤したり。
いざ雨や水たまりに触れると時間を忘れて夢中で遊ぶ姿が微笑ましいです。



雨が強い日は部屋の中で制作を楽しみます。手形や足形を取ったりちぎり絵をしたり。それぞれの月齢に合わせた方法で作品を作り、部屋に飾るとみんなで指差ししながら話しに花を咲かせます。

(看護師 佐藤)



おもちゃ紹介

0〜1歳児編

まわしてクルクルサウンド

うつ伏せで過ごす児や、お座りが出来るようになった児に人気なのがこの玩具。
触ると、回ったり音が鳴ったり光ったり
…刺激が沢山、みんな夢中で手を動かしています。

1〜2歳児

プラスチック（棒通し）

指先を使って棒通し。一つ通したら次もとみんな夢中で遊びます。上手に色ごとに分ける児もいます。



アンパンマン救急車

体温計や注射でお医者さんごっこ。「ピッピー（検温）」「ちっくんしますよー」と大好きなアンパンマンを看病しています。

(保育士 高橋)



「抱える」JOURNAL

小さい子どもと接している時、「抱える」「抱っこする」ということはとても日常的なものだと思います。今回は、その「抱える」ということをテーマにして考えてみたいと思います。

辞書を引くと、「抱える」という言葉には「落ちない/離れないように、腕を回して支える」という意味のほかに、「自分が責任を負い、面倒を見るものとして引き受ける」という意味もあるようです。改めてこうやってことばで整理すると、何かを「抱える」というのはなかなか大変なことだ、と感じます。

小児科医のウィニコットは、子どもを「抱える」ことは、子どもが「〜と共に生きていく」ということを体験していく前の段階として重要なのだ、と述べています。言い換えると、子どもは自分の身体や気持ちをまるごと大人に抱えてもらう体験がなければ、大人と一緒にそれを抱えたり、ましてや自分ひとりで自分を抱えたりすることはとても難しいです。自分の身体や気持ちを抱えてもらう体験

を何度も積み重ねていくことで、子どもは「自分の身体/気持ちはこんな感じなんだ」と気づいていき、それを少しずつ自分で「抱える」ことができるようになります。だからこそ、赤ちゃんが泣いたときに「おなかすいたのかな」。眠いのかな。など声をかけてあやしみながら、気持ちも身体も「抱っこ」することはとても大事なのです。

でも、そんなふうに子どもの身体や気持ちを抱え続けることはとても大変です。子どもの世話に関することでもなくとも、「もう抱えきれないよ…」というような気持ちは誰もが体験したことがあると思います。そんなときは、大人の私たちも誰かに「抱えて」もらうことで、少し元気になったり、気持ちが楽になったりします。もう子どもではなくなくなってしまったので、誰かに身体的に「抱っこ」してもらうことは難しいですが…。だからこそ、せめて気持ちはあまり自分だけで抱え込みすぎず、誰かと「共に抱える」ということが大人の私たちには大事なのかな、と思っています。

(心理士 濱田)

今後の行事

- 10月 ハロウィン
- 12月 クリスマス

お知らせ

聖オディリアホーム乳児院のホームページがあります。
合わせてご覧下さい。

<http://odilia.jp>

☆編集 後記☆

院で栽培したピーマンやミニトマトの収穫をしました。まだまだ暑い日が続いていますが、元気に乗り切りたいです。



高橋